

表現力

身体表現(演技)

●対象学科

映像

●対象入試区分

表現力入試／一般選抜Ⅱ期B方式

●出題意図

「演技をする力」は、「人間力」の大切な一要素だと考えます。

この試験は、個々の身体的なセンスや運動能力を問います。また、与えられた課題から想像力を広げることができるのかを採点のポイントとし表現者としての可能性を見る試験です。

●評価のポイント

自分の体と声、動きをのびのび使って演じてください。演技技術を審査するわけではありませんので、出題内容の設定を理解し演技(台詞、動き、声)に取り込むことができているか。また、どのように自分が見られているのかを考慮した動きであるかも注目します。何が演じられているのか理解できる内容に組み立ててください。

●演技試験

提示された課題について、からだ・声を使って表現した後に、質疑応答を行います。

課題は、試験場において、試験監督者がペーパーで渡します。

●注意

動きやすい服装で来てください。(制服可)

●試験の流れ(試験時間:約15分)

1. 課題用紙配布

基本的な音声：試験室入室時に次の内容をはっきりと述べてください。

受験番号()番(氏名)です。出身は(都道府県名)で、学校は(学校名)高校を卒業する予定です。年齢は()歳です。

その後、課題が書かれた用紙を渡します。

2. 演技

渡された課題を読み、演技プランを考える(約5分)。

演技を行う(約3分)。

3. 質疑応答

演じられた演技について質疑を行う(約7分)。

問題内容

▶課題例①

次の設定を踏まえた上であなたが場面を作り、動作・声で演技を行ってください。

【設定】

「気分が良いときに、気分が悪くなる状況が起きた。」

部屋に入って来る主人公。風呂から上がり心地よい時間を過ごしている。電話が鳴り、誰かが電話をかけて来た。受話器を取って話し始める。借金の催促だった。(話の内容と相手は自身で考える)通話が終わり受話器を置く。



これは、風呂から上がって来た主人公が冷蔵庫を開け飲料を取り出そうとしている動きです。からだを大きく使って状況説明とテーマである「気分が良いときに、気分が悪くなる状況が起きた」の「気分が良い空間」をのびのびと伝えようとしている演者の意思が読み取れます。

▶課題例②

次の設定を踏まえた上であなたが場面を作り、動作・声で演技を行ってください。

【設定】

「怒りたいが、嫌われたくない。」

暑い夏、渋谷の駅前で主人公が恋人を待っている。もう1時間も待っているのに相手は来ない。

すると遠くから、待っている恋人がやって来た。主人公は怒りたいが恋人に嫌われたくないという感情で声をかける。そして二人でどこかへ去って行く。(話の内容を自身で考える)



テーマ「怒りたいが、嫌われたくない。」という主人公の心の中の葛藤をからだで表現しています。少しオーバーアクションですが、見ている側に笑いを誘発させる効果があります。